

新たなフェーズに入った海外安全対策

めまぐるしく変化する海外の治安情勢。
犯罪や事故からどう身を守ればよいのか。

株式会社オオコシ セキュリティ コンサルタンツ
代表取締役社長 大越 修

1. 海外の犯罪情勢と安全対策

外務省の『2015(平成27)年海外邦人援護統計』(以下、援護統計)によると、同年の海外渡航者数は1621万3789人であった。渡航者の海外滞在日数を平均5日とすれば、1日平均約22万人の日本人渡航者が海外で滞在していることになる。また、同省の『海外在留邦人数調査統計』では、15年10月1日現在の長期滞在者(3カ月以上)は85万9994人で、永住者が45万7084人。したがって、合計約154万人もの日本人が毎日海外で生活していることになる。便宜上、この人々を「海外区民」と呼ぶこととする。

一方、援護統計では15年中に海外の日本大使館や総領事館で受けた援護は、1万8013件、2万387人で、うち犯罪被害による援護は4719件、5056人であった。

空港に着いたら海外モードに

ここで、「海外区」と日本国内の治安状態を、犯罪発生率(人口10万人当りの犯罪発生件数)で比較してみる(表1)。

この表から海外では殺人や強盗など生命に関わる事件の発生率が国内より高いことが分かる。強盗事件は日本の8倍以上の発生率である。

表1 犯罪発生率比較表 海外区 vs 日本

	殺人	強盗	強姦	傷害・暴行	脅迫・恐喝	窃盗	詐欺	その他	計
海外区 (件数)	1.1 17	16.7 257	2.1 33	7.0 95	3.4 53	249.0 3834	24.8 382	3.1 48	328.3 4719
日本	0.7	1.9	0.9	45.4	5.0	635.3	34.3		718.6

出所：外務省「2015(平成27)年海外邦人援護統計」を元に筆者作成
1. 海外の犯罪件数は外務省の援護統計2015(平成27)年による。テロの3件は殺人に含む。
2. 国内の犯罪発生率は、警察庁の統計による、平成27(2015)年分である。

犯罪全体では、日本国内の方が高い発生率となっている。しかし、一般的に、海外渡航中はスリやひったくりなどの被害に遭っても、「旅券が盗られた」等の特別な場合を除いては在外公館に届け出ることはほとんどないということを考えれば、海外での被害件数はこの表の数字をはるかに超えていると推測される。渡航先の空港に着いたら、海外モードに切り替える必要がある。

「海外では日本国内より高い確率で犯罪に遭い、しかも対応を一步間違えると命に関わる事件が多い」ことを念頭に、次の点に留意されたい。

- ①自分も狙われていることを自覚し、周囲に注意して身を守る
- ②外出時は貴重品や余分なお金は持たない、旅券と現金は別々に持つ
- ③強盗に遭ったら、持っているものは全て差し出す

滞在先周辺医療機関を事前に確認

援護統計によると、15年中の海外における死亡者は533人で、その内訳は疾病による死亡者406人、自殺46人、レジャー・スポーツ事故22人、交通機関事故20人、作業事故3人、自然災害2人、その他14人などである。

海外で病気で亡くなる方が多い。永住や長期滞在という特殊事情によるものと思われるが、滞在・

居住地周辺の医療機関を事前に確認し下見しておくことをお勧めする。

自殺については、慣れない海外生活からのストレスも原因と思われる。赴任者とその家族の悩みを日本語で相談できる環境、システムづくりも必要だ。